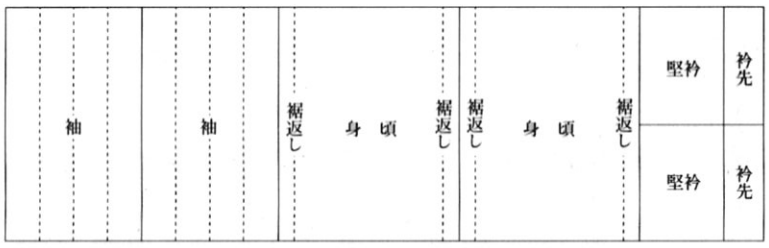
# 平成29年度和裁士技能検定（2級）学科試験解答

実施日：平成30年3月11日
所用時間：60分

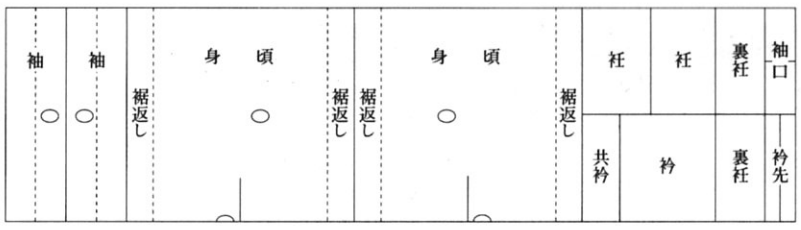
**(1) 次の5問について、各部分を寸法に応じ配分し、その名称をよくわかるように記入して裁断図を書きなさい。(裁ち切りは実線、折り山等は点線で記入)**

(配点各問6点)

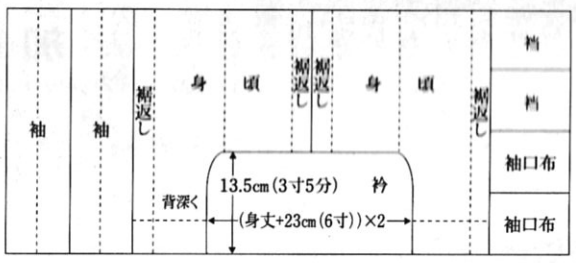
①並幅物12m（3丈1尺7寸）で本裁女物、袖無双、別衿長襦袢を作りたい。
裁断図を記入しなさい。



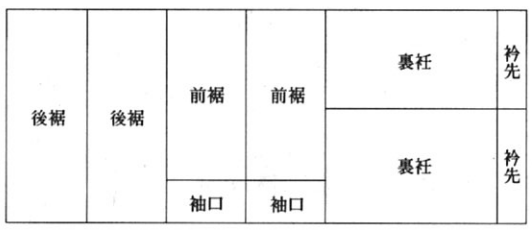

②並幅物16m（4丈2尺2寸）で女物袷喪服（裾無垢）を共裾を作りたい。
裁断図を記入し、紋の位置および衿肩明を明記しないさい。



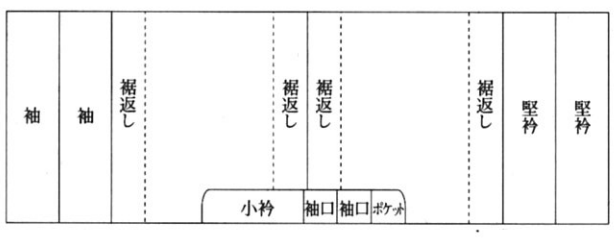

③並幅物6m（1丈5尺9寸）で女物羽織を作りたい。裁断図を記入しなさい。
ただし、裄寸法は62.5cm（1尺6寸5分）とする。




④並幅物3.2m（8尺5寸）の裏地で、女物長着の裾回し（八掛）を裁ちたい。
裁断図を記入しなさい。




⑤並幅物10m（2丈尺6尺4寸）で道行衿袷半コートを作りたい。
裁断図を記入しなさい。




**(2) 次の各問の文章が正しい場合には○印、誤っている場合には×印を所定の位置につけなさい。**

(配点各問2点)

( ○ ) 1. 一越ちりめんとは緯糸に左撚りと右撚りを交互に織り込んだもので、二本おきに織り込んだものを二越ちりめんという。

( ○ ) 2. ポリエステル系合成繊維のポリエステルは帯電性があり、汚れがつきやすい。

( × ) 3. ①絞り浴衣、②上布、③御召し、④絣、は先染めものである。

( × ) 4. 絹織物の中で綾織物には、黄八丈、御召し、紬、パレスなどがある。

( × ) 5. 色の三原色は赤、緑、紫で、光の三原色は赤、黄、青である。

( ○ ) 6. 覗き紋とは丸い輪（陰）の下部または上部に紋の一部を覗かせた紋である。

( × ) 7. 総絞りの裏打ちは、共糸で裏打ちしなければならない。

( × ) 8. 唐草模様は日本古来のものである。

( ○ ) 9. レーヨンは虫に害されるが、ナイロンは虫に害されない。

( × ) 10. 茶屋辻模様は全体が茶色系統の一色染めである。

( ○ ) 11. シルケット加工した木綿は、絹のような光沢がある。

( × ) 12. 色の寒暖は、有彩色だけでなく無彩色にもある。

( ○ ) 13. 婦人用羽織の衿用布は羽織丈に約27cmを加えたものを2倍取ればできる。

( × ) 14. 男物羽織の抱き紋の位置は、反物の巾の中央にある。

( × ) 15. コートの袖丈は、着物の上に着るから着物より長くする。

( ○ ) 16. 被布衿コートは普通、マチを付けないで仕立てる。

( × ) 17. 女物長着の袖の柄は普通、右前、左後ろにポイントをもってくる。

( ○ ) 18. 衿を多く抜いて着付けをする人の着物の袖付けは後を少なくする。

( ○ ) 19. 裁ち切り衿肩明寸法＝（首回り×1/4＋（背縫い代）である。

( ○ ) 20. 柄裁ちをする場合、長着は上前の前身頃および胸にポイントをおき、羽織は後身頃にポイントをおく。

( ○ ) 21. 1反の反物から羽織を2枚作るとき、前身頃より衿を取る場合は背縫いが深くなるから、必ず裄を測ってから裁つべきである。

( ○ ) 22. 被布には飾り紐を付けるが、内紐は付けない。

( × ) 23. 長襦袢の後身頃、前身幅は、きものの下に着るので、きもののそれより狭くするのがよい。

( ○ ) 24. 男物の袴の紐下とは、前紐の下部から裾までをいう。

( × ) 25. 江戸小紋は多くの色を使って染められているが、京小紋は一色で染める。

( ○ ) 26. 袋帯や名古屋帯を締めるとき、胴（手）は「わ」を下にして締める。

( ○ ) 27. 女物長着の裄下（衿下）寸法は、身長の約1/2を基準にする。

( × ) 28. ミシン用のカタン糸と絹のミシン糸では原糸が違うが、両方共に二本撚りで、同じ撚り方で撚ってある。

( × ) 29. 道行コートはフォーマルなもので、寒いときはもちろん、どんなときでも脱ぐ必要はない。

( × ) 30. 糸は太いほどデニール数は小さくなり、番手の数は大きくなる。

( × ) 31. 家蚕の繭糸1本の太さは約15デニールである。

( × ) 32. 横断柄を肥満体の人に仕立てる場合は、柄を並べたほうがよい。

( ○ ) 33. 裁ち板には、柳、朴、桂、銀杏などのよく枯れたものが適している。

( ○ ) 34. 麻繊維は植物繊維のジンピ繊維である。

( ○ ) 35. 生糸は、2本のフィブロインとそれらを包んでいるにかわ質のセリシンとのほとんどで占められている。